

■ 2 学年 読解 I，公共 現代文の教材を，倫理の学習視点から読む

担当：国語科・地歴公民科教員

研究課題 C 多様性理解力を育成する取り組み

D 創造的思考力を育成する取り組み

仮 説 ①ある教科の学習内容を，別の教科の理解に利用することにより，知識の活用の水準を上げる。②決まった答えがない困難な問いに取り組むことにより，多様な考え方があることを知り，深い学びにつながる。

研究内容・方法 (実施期日) 11月17日(金) 第3校時

(対象学年) 2年1組(39名) (教材)『現代評論20』、『詳述公共』，自作プリント

(割当時間) 1時間

(探究主題) 評論文『デカルト主義』を，公共の授業で学習した理論を活用して読解する。さらに筆者の主張を具体的事例に置き換えて考えることで，望ましい社会について思考を深める。

(授業展開)

①国語科で扱っていた教材『デカルト主義』の内容を確認する。②公民科で学習した弁証法の考え方を確認する。③『デカルト主義』で述べられている主張を弁証法の思考に当てはめ，その主張を発展させた主張について班別に考える。④班ごとに発表し，ふりかえる。

評価の方法 ワークシート，グループでの活動や発言等の観察

検証・課題 検証(1)前時までに教材の論説文を十分に理解していない生徒は，授業者の発問に対してどう対応してよいかわからなかった。(2)公共で学習した知識の定着はよりはかられた。また，多様な考え方にふれる経験も達成できた。(3)再び個別学習に戻ることで，さらなる思考の深まりは期待できる。(4)具体・個別から一般・抽象なものへの思考の変換が生徒たちには難しい様子であった。

課題(1)それぞれの教科における普段の授業で，生徒の教材に対する理解をより深めた状態で臨めば，より深い学びへの効果が高まる。(2)集団での学習を経て，個別学習を経験するための時間を確保するため，授業者間のコーディネートをより綿密に行う必要がある。